

公益財団法人 庭野平和財団

団体情報

代表者 (理事長) 庭野 浩士

住 所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-16-9 シャンヴィラカテリーナ 5F

WEB サイト URL <https://www.npf.or.jp/>

宗教的精神にもとづく平和のための活動を理論と実践の両面から推進する

公 益財団法人庭野平和財団は、
創立 40 周年を迎えた宗教法人
立正佼成会の記念事業として 1978 年（昭
和 53 年）12 月に設立されました。

立正佼成会の開祖、庭野日敬師は長年、
教団の柱をこえた、宗教的精神に基づく平
和活動の必要性を説き、国際的には“世界
宗教者平和会議”、国内では“明るい社会づ
くり運動”等の宗教協力活動と平和活動の
諸活動に積極的に参加し、それらを推進し
てまいりました。

しかし、それらの活動は特定の宗教法人が
行うよりもできるだけ特定の宗教法人の柱
をこえ、宗教界の多くの人々、さらに宗教
的精神を基盤に活躍する人々の協力によっ
て広く社会的、公共的見地に立って、その
独自の組織により推進すべきものであると
の見地から、宗教的精神を基盤とした人類
の平和実現のために当財団が設立されまし
た。

そして、宗教的精神を基盤にした平和のた
めの思想・文化・科学・教育等に係る運
動、研究の発展を促し、人類の文化の高揚
と世界平和の実現に寄与することを目的
に、助成事業、褒賞事業、講演会や研究会
の開催を主な事業として活動が展開されて
きたのです。

庭野日敬師は財団設立にあたり、その著
書の中で、『もともとこの平和財団設立が
計画されたきっかけは、世界宗教者平和会
議をはじめ、私どもがこれまで積み重ねて
まいりました平和のための活動を踏まえ
て、宗教団体の本来の使命こそ、平和で豊
かな、そして幸せに満ちた世の中を作り上
げていくことにある、という確信から出発
したものでありました。ある意味でそれ
は、この身に課せられた宿命にも似た役割
だと、私は思っております。』と平和活動
が宗教団体本来の使命であるとその心情を
述べました。また、『平和の問題はだれも
が口にします。しかし、真剣になって取り
組もうとすればするほど、その念願を果た
すことがいかに難しいものであるかが痛感
されてまいります。なによりもこの念願を
不動のものにして、真の平和が世界に訪れ
るときまで活動を貫いていくためには、揺
るぎない母体をつくり、そのための財政的
基盤をここで築く必要があります。』と述
べ、平和社会実現のための活動を支える財
政的基盤構築の必要性に言及しました。

当時、宗教団体が平和運動に取り組むこ
とに対して、教団内外に疑問視する人や、
揶揄する声があったようです。

しかし、「平和には専門家はない」という言葉に勇気づけられて、立正佼成会は宗教団体としての立場から平和を考え、平和を希求し、平和を訴え、世界宗教者平和会議や明るい社会づくり運動等の平和活動に積極的に参加してきました。

そして平和社会実現のための活動を支える具体的手段として財団設立が構想され、設立準備委員会や財団の事業、財政、人事など、分野別に詳細な課題を検討するワーキンググループ（WG）が立ちあがりました。WG では財団の事業内容について検討したほかに、特に財団の性格に関わるものとして、① 公共性、② 社会への影響力、③ 聖と俗との区別、④ 安定財政の確保について検討を重ねました。

その後、財団設立について教団理事会での承認を得たのちに主務官庁への説明、折衝等の具体的作業、設立発起人会開催を経て、1978年（昭和53年）12月1日に設立許可を取得。同8日に財団法人の設立登記が完了し、正式に庭野平和財団が設立されました。

爾来、庭野平和財団は、宗教的精神に基づく平和のための活動を理論と実践の両面から推進していくことを基本理念とする助成型財団として活動してまいりました。

2010年（平成22年）12月には新しい公益法人制度のもと公益財団法人庭野平和財団となりましたが、それまでと同様に基本理念の中の”宗教的精神“と”平和“をキーワードに事業を展開しております。ここでいう宗教的精神とは、神仏への畏敬の念から発して、ひろく社会及び個人の生活における物心両面の福祉に寄与しようとするものをいいます。そしてその根底にあるのはキリスト教における愛であり、仏教で説くところの慈悲であると考えております。

同じく平和については「戦争のない状態」ということに留まらず、多くの対立や緊張を含みつつも、より一層の調和と充実を求める動的なプロセスと考えています。したがって、そこには「社会的・外的側面」とともに「精神的・内的側面」も含まれることとなります。また、平和の達成には実践が不可欠ですが、その実現の条件をさぐるための理論的な作業も重要であると考えています。一方でこれらのキーワードが関係する範囲は広く、当財団は多岐にわたる事業を展開しております。

現代は多種多様な情報にあふれ、自分を見失いがちであるといわれます。その中で、仏教的な慈悲と智慧に基づき、物事の実相を見極め、時機をわきまえて公益財団法人として今、何をなすべきかを真摯に、これまでの経験を活かしながらも各界の新しいお智慧を頂きながら、一層充実した諸事業を展開したいと思っております。

(2021.01)